

## 小中学生、手作り店舗で「商売繁盛」

市子ども夢パークで「ゆめ横丁」



川崎市子ども夢パーク(高津区)で6日、恒例の「こどもゆめ横丁」が開かれた。今年で6回目。出店

の条件は手作りの店舗。同市や横浜市などの小中学生らが廃材を使い、色とりどりのペンキでデザインした

店を作り、本物のお金で商売をする。

商品価格の上限は70円。おでんやうどん、ドーナツをはじめ、アクセサリーに的当てゲーム、マッサージまで39店舗が軒を並べ、約160人が店員となって威勢のいい声で客を招いた。

売り上げの1割は「横丁税」となり、過去にはこの「税収」で、サクランボの苗木を購入して育てたり、施設内の遊具を買ったりしている。材料費などを引いた残りはお小遣いに。

川崎市立下作延小学校4年の倉田桃華さん(9)と2年の宮内円樹さん(7)はポップコーンをカップに入れて20円で販売。「うちで簡単に準備できるし、人気もあるからポップコーンが一番」と精を出した。